

東日本大震災 宮城県名取市職員派遣 報告書

1. 概要

4月上旬、市長が緊急消防援助隊の派遣先である宮城県名取市を訪問した折り、名取市長との会談において必要な支援を受け入れるとの合意がなされたことから、同市の避難所における健康・メンタル面の被災者支援を行うことを決定し、5月9日から21日までの間、保健師、看護師及びケースワーカーを延べ12名派遣しました。

この派遣にあたり、名取市が必要としている支援物資についても提供することとし、副市長をはじめとして3名が第1班と同行し、続く2班及び3班の送迎に運転業務を行う職員を別に1名又は2名配備しました。

2. 名取市について

宮城県のほぼ中央に位置し、名取川・阿武隈川の両水系に囲まれた肥沃な土地が広がり、また、気候も温暖なため古くから農耕に適しているなど、自然条件に大変恵まれた土地柄です。



3. 名取市の被害状況について

今回の震災による名取市の被害状況は以下の通り。

死者数	901
行方不明者数	148
避難者数	929
避難所数	9
住宅、建物被害（全壊数＋半壊数）	不明

5/14:19:00、時点の名取市の被害状況 ※宮城県及び名取市 HP のデータより

閑上地区及び北川地区の沿岸部では、津波のため集落ごと壊滅したところもありました。又地震による建物の被害及び生活インフラの影響はほとんどない状態でありました。

避難者一人ひとりが持つ背景が、居住していた地域や環境によって異なっていたことも、今回の震災のこの地域における被災者の特徴であります。

今回の災害派遣で実際訪れた、閑上地区の津波被害の状況について、写真に示します。

被災地の状況



建設中の仮設住宅



砺波市の保健活動



4. 現地での活動について

① 物資支援班

物資支援班は名取市からの要望がありました支援物資を提供すると共に、今後の支援方法等について名取市の関係者と調整を行いました。

② 現地支援班

避難所において避難民と寝食を共にし、健康・メンタルケア（健康相談、健康チェック、心配ごと相談など）を行い2名1組体制とし、避難所又は仮設住宅に1組ずつ配置し、活動を行いました。

具体的には避難所となっている名取市文化会館（約300人）や他の避難所（増田西小学校など）を巡回して健康相談等の保健活動を行いました。

活動内容としては午前8時から午後9時まで避難所の環境整備や健康相談等の業務を行いました。相談内容では健康に関する相談の内容が多く、震災後高血圧になった方や心の相談を受けることがありました。

③ 運転班

被災地まで職員を送迎する長距離運転を行いました。

④ 避難所の状況

避難所内では空気が乾燥し、換気ができない状況から咳やのどの痛みを訴える方が多く、マスクの着用やうがい薬を設置して予防に努めていました。

避難所では毎日各種ボランティア（床屋、美容師、化粧品会社、鍼灸師、地元の食改）の方が活動を行い、支援の輪が広がっていました。

避難所には大型テレビが1台設置され、誰でも見るできていました。

避難住民への情報提供及び伝言は窓ガラスに文書を貼り付けて対応していました。